

文化祭・体育祭を

校長 村田源次

本学園は創立以来、諸先生の指で毎年発表されるのが大事ではないかと思っています。

學園の伝統は、平和な學園に於て活かされることを忘れてはなりません。即ち文化は人間の平和への希望と、平和の確立の実践によって生み出されるものであると私は信じています。

異っています。来年度はぜひミッシヨンのカラーを強く出して頂きたいものです。

ミッシヨンに魅せられて入学された皆さんです。どうかミッシヨンの使命を大切に、他人に示す

れば、見る方々にミッシェン校である自覚を与え、また生徒諸君もミッシェンに入つた喜びを持つと思ひます。



前期中学生徒会長

「体育祭」から連想するもの――そして何といっても体育祭にデコレ、アトラク、応援団。い応援団がつきものだ。当日も朝

になつた。それを見る人を羨し
てくれると共に、各クラスの
實態に対する意気込みを徴せ
るかのようだ。いつものよう
に新しい話題を取り入れた物が多
く、特に「おしん」や「フラジ
ル」と、ほゞ成功だったと言つ
ていいのではないだろうか。も
ちろん問題がなかったわけでは
ない。進行が全体にやや遅れた
と、練習ではよく出ていた「

上には、クラフ数もかなり増えた。クラフが制限時間をオーバーし
ていたからだ。た、ほとんど
の熱心な援もあつて、秋晴れ
下で思う存分楽しめた絶好の体
祭であつたと思う。



H I C
黒瀬義機

さて、僕は展示とBSSと合唱に参加しました。

まず、展示ですが、これは僕の場合はBSSを主体にしていたために残念ながらあまり力を入れることができませんでしたが、でもでき上がったものは質こそはもらえませんでした。が、好評で充実にできていたと思います。

祭の後にクラスがまとまり、本質を

心な指導を受け、当日、本番は皆全力を出しきることができ、大変よかったです。演技とほうらはらに観客が余りにも少なかった。

化祭、体育祭と様々な思い出を作りました。なかでも初めての文化祭は一番印象深く、中学生になったチャンスでもありました。文化祭の実感を強く味わいました。中学祭が近づいてきて、学校が造り出す生と高校生が一緒になってやる活き、一つの目標に突き進んでいく星の文化祭、一言で言って、「星」「力」は、とても素晴らしいものだった。「見るもの聞くものすべてあることを知りました。それに、べて新鮮で面白く、いい刺激を受今までよく知らなかった上級生や

けました。内容も演劇、合唱、コ先生方と一緒に参加したことは、ソサートのスチージ発表、映画会いろいろなことを知るチャンスで、や各教室の展示、模擬店というのもあり、友達もできました。特別な企画が組み込まれていました。先生出番です。先生方が、ぐ

た。その密だぐさんの企画に僕一と身近になったような気がしたのは圧倒されました。また、それぞました。この初めての文化祭で、れの催し物や作品に、みんなの団役は貴重な体験をし、よい思い出結力や行動力が思う存分発揮さをつりました。来年は、今年とれ、そのエネルギーに圧倒されはもう一つちがった視点で、文化て、ポーとしているうちに三日間祭に参加できると思っています。

悲報相次ぐ

この悲しい知らせは、六時限終了後、森住副校長先生より全校生徒に知らされました。

「広野敬昌君の思い出」

MI B 片瀬清幸

去る十月二十三、麻務の太八、木二郎先生が、苦しい療養生活、治療のいかんなく亡くなられました。大八先生は、学園の創立間、十一月十八日、広野君はくなく、二時間目に救急車で運ばれたと知った時、すぐ元氣になって帰ってくるだろうという期待で、ラフになりました。しかし、何か学校外ですることがあると、やはり小学校時代から一緒の広野君と一緒に行動しました。特に印象こ

講堂で行なわれました。三十年近く学園を支えて来られた大八木先生の死に、我々は悲しみを新たに、ここに心から哀悼の意を表します。

僕は、小学校の五、六年の時に広野君とクラスが一緒でした。特に六年生になってからは、気も合つて、帰る時、遊ぶ時はいたいたい一緒でした。小学校のクラブは違つたけれど、待ち合せて他の

君は呼ばれて起き上がった。さうして三時間余りも歩きまわつていました。何處もあきらめそうになつたけれど、それでも探し続けました。そして、京都駅の近くでやつと見つけた時は、日はもうすでにとつぷりと暮れていました。家がお互いに近いので、帰る道々、二人でいろいろな話を話した。

廣野敬昌君を悼む

我々の仲間が突然、この世を去

った。中学一年A組、広野敬昌君は、去る十一月十八日、二時限目の体育の授業で、行なわれていたととも元気で、他の人が長さボン登校時に出会った広野君の元気な

救急車で、第二急救センターに運ばれたが、脇阪先生が救急隊員の必死の手当てでむなしく、亡くなられました。

今年の四月念願がなつて、あこがれの客星の門をくぐつて以来半精進を怠りません。今、アルバムをばうしています。今、アルバムをばうしています。今、アルバムをばうしています。

をはく冬の間も、ほとんど毎日パソコンで過ごしていました。キャンプの時も、広島への修学旅行の時も、又、箱館山への雪国見学の時も、広島君とは同じ班でした。だから、写真を見ても、広島君と二人が、広島君、どうか安らかに。

短かい間だったけれど、とても楽しく、又、仲良くできてよかったと思います。思い出は尽きませんが、広島君、どうか安らかに。

『アストラダムスの

『予言』『恐怖の黙示』その他諸本の、いわゆる予言書といわれるものである。

また、人類の滅亡を予知した人々、
 他に大勢いる。ローマクラブ
 をどう、CIAがどう、軍事科学
 集団ストリックホルム研がどう、
 アイシシユタインもどうが
 た。そして、我々が手にしては
 聖書にも終わりの日がくること
 記されている。

これらの事実をそのままにとら
ゐる。これは一人一人異な多
多である。今、信たないといふ人
れば、信たないといふ人た
る。しかし、現象問題と
中東の紛争を悪化せしめ、
多きものといふは間違ない。
信たないといふも、信たない
たないといふも、一九九九年は注
べき年である。また、その年
のよきに生ずるいか、と
うことも興味深い問題である。
一九九九年まであと十数年、

「生きたらいいのだし、勉強した
ところでも仕方ない。」と考える
ものもあるかもしれない。また、何
に救いを求めて、宗教なり何な
に母頭する人もあるかもしれない
という人も大勢いるだろう。
こんな問題を考えるのは全くは
げたとこかもしれないが、これ
だけ世間で騒がれている問題で
もよいと思う。日頃勉強やクラ
ムのごで頭が一杯の人も、時に
頭を休めて考えてみてもらいた

一九九九年という年をどのよう
に考へるか。破壊の時と考へる
か、いや全くそんなことはない
と考へるか。また、その年まじ
うに生きていくか。このことに
して特別な意見を持つている方
いれば、是非伺いたいものであ
る。

